



—東地中海地域ニュース—

エジプト：中東和平に関するエジプト・イスラエル大統領会談（11月23日付現地各紙）

11月22日、カイロにてムバーラク・エジプト大統領とペレス・イスラエル大統領の会談が行われた。23日付現地各紙は、以下のように報じている。

1. 共同記者会見でのムバーラク大統領の発言

(1) 和平交渉再開

自分はペレス大統領に、和平プロセスに応えることを求めた。そして、東エルサレムを含む被占領地での入植活動の停止、全ての最終地位問題について、交渉が停止したところからの交渉の再開を求めた。和平プロセスが通過している現在の機微な時期は、パレスチナ国家についての過度的な解決や一時的な解決を求めている。我々の外交努力は、合意された限定的なタイムフレームの中で実施される公平な最終的解決を目的としている。

(2) イスラエル側への要望

(イ) 自分はペレス大統領に、和平に向けた外交努力が今年6月に会談して以来進展していないことへの懸念を伝えた。そして、イスラエルが和平プロセスに対して、その原則と基盤を遵守しつつ履行されるべきであると強調した。

(ロ) 和平は今もなお実現可能であり、現在はイスラエル側の政治的意志が求められていることを強調する。

(3) エルサレム問題

エルサレムはパレスチナだけの問題ではなく、世界のすべてのムスリムにとって重要な問題である。もし、エルサレム問題の解決に至らなければ、イスラエルは世界の全ムスリムから敵意を抱かれるであろう。

2. 共同会見でのペレス大統領の発言

(1) 和平プロセス

(イ) イスラエル政府は、二国家解決に向けて前進する用意がある。我々は、交渉を続けなければならない。そして、両者の対立を超えて、両者の立場が近づける可能性について、我々は肯定的に見ている。この立場は、ネタニヤフ・イスラエル首相が和平プロセスに対して表明しているものでもある。

(ロ) 我々はロードマップに合意した。そして、解決に達する可能性を信じて、全ての懸案中の問題を提示することを呼びかける。

(2) 入植活動

(イ) (和平交渉再開のための入植活動停止の可能性を問われ) イスラエル政府は、新しい入植地が建設され、西岸での入植地に新たな投資が行われないように、パレスチナ側に即時に和平交渉の再開を求めている。同様に、我々は違法に建築された入植地の排除も行っている。

(ロ) エルサレムは、イスラエルにとっても重要であり、イスラエルの支配・主権の下に置かなければならない。エルサレムは入植地とは見なされない。我々は将来、入植地は建設しないし、エルサレムの状況を緊張化させることもしない。我々は、友人であるムスリム達に、我々はムスリムの聖地を尊重していると言いたい。

(3) ムバーラク大統領並びにアッバース PA 大統領への評価

ムバーラク大統領には、過去 20 年間戦争を防いできた大きな役割がある。ムバーラク大統領は、アラブ世界で最大の国における勇敢な指導者である。また、アッバース PA 大統領へ挨拶と敬意を伝える。アッバース大統領は自治政府の実行力のある大統領である。

(4) イラン問題

(イ) イランはその野心によって、地域における巨大国家になり、地域国家に対し兵器によって脅威となり続けるであろう。この問題は、言葉のみによっては解決出来ない。

(ロ) (イスラエルの NPT 加盟および中東非核化構想拒否などに関して) 我々はいかなる当事者にも圧力をかけてはいない。しかし、イランは我々を脅迫している。我々は、イランに対して、イスラエルを破壊すると脅迫することを止めるよう求める。我々はイラン国民に反対しているのではない。しかし、イランの現在の指導者には反対している。

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799